日本財団 THE NIPPON FOUNDATION　海と日本 PROJECT

千葉の海辺 新聞コンクール

■執筆・紙面構成　柳田　陽香　船橋市立前原小学校４年

埋め立て進んだ三番瀬

豊かな漁場 民話の舞台

船橋市内の児童が、地元に伝わる民話「雪どけ塚の白ヘビ」をテーマに取材や写真撮影など新聞制作に挑戦した。日本財団などオールジャパンで推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、国内に残された海にまつわる「民話」「伝承」を選定し、子どもがさらに次世代へと伝える機運醸成を狙っている。船橋市立前原小学校4年の柳田陽香さんが執筆した紙面を紹介する。

私たちはふなばし三番瀬環境学習館で、三番瀬の歴史と自然について取材してきました。

三番瀬はとても歴史があって、江戸時代には一番瀬、二番瀬、三番瀬と分かれていました。しかしその後、一番瀬、二番瀬はなくなってしまいました。そして三番瀬では戦後、埋め立てが進み、干潟がなくなってきました。

皆さんは、税金を「お金」で納めてはいますよね。徳川家康がいた江戸時代、人々はお金の代わりに魚で、お殿様に税金を納めていました。

しかし江戸時代に大きな地震で、山の土砂が東京湾に入り魚が取れなくなった時期もありました。

皆さんは、潮干狩りは好きですか？三番瀬は鳥も貝も潮干狩りも有名なので、行ってみてくださいね！

民話の舞台・長福寺。かつては船橋の海が望めたとされる

海とまちのつながり学ぶ

御菜浦　豊かな海に争いも

ふなばし三番瀬環境学習館で船橋の海の歴史を説明する担当者

海とまちとのつながりについて、船橋市教育委員会文化課の坂本健太さんに、夏見公民館でお話をうかがいました。

船橋は徳川幕府に魚を献上するほど豊かな漁場で、御菜浦と呼ばれていました。その豊かな漁場の権利を徳川幕府が認めていましたが、他の地域の人々と争いが起きました。

本町の不動院にある石造釈迦如来坐像は、1746年に起きた津波で亡くなった人々のために作られました。また、1824年には漁場を巡る争いが起き、船橋の漁師が相手方を殴りました。漁師は牢屋に入れられ、3人のうち2人死亡してしまいました。1746年に起きた津波の霊とともに、彼らを供養することになりました。

2月28日に行われる大仏追善供養は、石造釈迦如来坐像に白米をつける行事です。これは、牢の中にいたときの貧しさを補うために行われています。

坂本健太さんは、夏見にある長福寺も案内してくれました。この場所に中世に夏見城というお城がありましたが、その後、お寺が出来ました。そのお寺が、民話の舞台となったのです。

下総国の漁師助けた光

船橋大神宮　灯台下で語る

船橋大神宮の禰宜・千葉さん

船橋大神宮には、漁師たちが目印にしていた「灯明台」がありました。なぜ作られたのでしょうか。「灯明台」の歴史について、船橋大神宮の禰宜（ねぎ）・千葉統彦さんにお話を聞きました。

昔、千葉県は下総国と言われていました。下総国の海では美味しい魚が泳いでいて、漁も有名でした。沖には岩場がいっぱいあり、魚が非常に住みやすい所でした。

漁師は、朝方と夕方に漁をします。漁をするため沖に移動し、夕方になると、どんどんと暗くなっていきます。帰る時に嵐がおきてしまうと、霧に包まれてしまい、暗くて海岸や街の光が見えません。帰って来れなくなったら大変だとして、1880年、灯明台が完成しました。

それまで、漁師たちは神社の境内にあった、常夜灯を目印にしていましたが、焼けてしまったため、灯明台が建てられたのです。灯明台は1月1、2、3日に公開。ほかに水神祭も開催されているので、ぜひ行ってみてください！

灯明台の前で歴史について語る船橋大神宮の千葉さん

編集後記

新米新聞記者になれた！

船橋市立前原小学校4年　柳田　陽香さん

柳田陽香さん

私はこの新聞コンクールの活動を通して、さまざまなことを学びました。

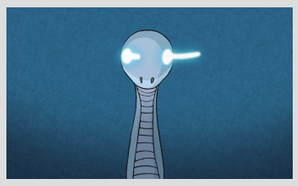
まず文の書き方を教えてもらいました。書くときは、いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、という点を書く良いと学びました。

次は取材です。取材するのはとても緊張しましたが、船橋市の昔のすがたを知ることができたほか、干潟にはこんな鳥がいる、徳川家康はこんな政治をしていたんだ、船橋市の民話はこういう民話なんだ、ということが分かる初めての体験をして、驚きと楽しさが混じった体験をしました。

生まれて初めての体験で、楽しかったです。船橋市のことをよく知ることができ、とても楽しい体験をさせてくださり、ありがとうございました！またこういう機会があったら、やりたいと思いました！

海と日本プロジェクト

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進している。


「雪どけ塚の白ヘビ」のワンシーン

雪どけ塚の白ヘビ

昔、夏見城を囲む土塁の近くに「雪どけ塚」と呼ばれる不思議な小高い塚があった。松の木の根元の穴に住む白ヘビは夜になると姿を現し、光る目の美しさと、やさしく気品のあるたたずまいで村人を魅了していた。ある日、出漁していた漁師が嵐に遭い、沖に流された。遠方に見つけた青い光を白ヘビの目だと信じて死に物ぐるいでかいをこぎ続けた…。

一般社団法人 日本昔ばなし協会